

# 加工のデパート“標榜し福証Qボード上場

日創プロニティ(株)  
石田利幸社長に聞く

## 第6工場建設を計画、M&Aも積極化

8月8日に福岡証券取引所の新興市場Qボードに上場した金属製品加工の日創プロニティ(株)(旧日創工業(株)、福岡市南区向野1丁目、石田利幸社長)。“加工のデパート”を標榜し、毎年平均3億円を投じるという生産設備の拡充とそれに伴う加工アイテムの増加で、1983(昭和58)年の設立以来、23期連続の増収を達成してきた。現在第6工場の建設を進めているほか、「上場後はM&Aを積極的に活用し、成長を加速させたい」と意欲的な石田社長に聞いた。

### Qボード初の製造業

「上場はあくまでも成長の”過程”段階」

—Qボード上場、おめでとう  
—ございます。まずはその感想からお聞かせください。

石田 上場自体は数年前から計画していましたが、個人的には来るべきものが来たといった感じでしたが、やはり外部の株主さんが増えますから、その責任に対して身が引き締まる思いです。また福証をはじめ、ご尽力いただいた方々には感謝い

たしております。

—Qボード上場はちょうど10社目で初めての製造業ですが、当初はほかの市場を考慮されていたとか。

石田 ジャスダックを考慮していましたが、Qボードに製造業がなく、福証はじめ地元福岡の経済界の方々からの強い要請を受けたこともあってQボードに決めました。上場はあくまでも

成長の過程であり、今回はホップ・ステップ・ジャンプの「ホップ」の段階と捉えていますから、いつかは申せませんが、ほかの市場への上場も当然考えています。

—上場で得た約4億円は、やはり設備投資を中心に使っていくか。

石田 現在第6工場を計画していますので、それを含めた設備投資に6割、残りを借入金の返済に充てようと思っています。しかし、今後はM&Aを積極的に進めていきたいと考えていま

す。これまでも「加工のデパート」を標榜し設備を増強して、その加工領域を広げてきましたが、まだまだ「デパート」の入りの段階です。今後は自社での設備投資だけでなく、M&Aで後継者がいない会社などを買収し、成長のスピードアップを図っていきます。

—上場の狙いの一つもその辺りの情報収集能力の向上などを期待しているわけですね。

石田 はい。上場で何が変わるかはこれからですが、後継者がおらず会社を売りたいと考えている経営者は、従業員の雇用確保が条件だったりしますから、

上場企業であるという安心感が買収先の経営者や従業員に与えられるでしょう。また人材の確保でも上場効果を期待しています。

### 設備の積極拡充で設立以来23期連続増収

“オーダー加工品”に特化し多業種と取引

—設立以来ずっと増収を続けていますが、その最大の要因は何だと考えていますか。

石田 やはり「加工」に特化し、積極的な設備投資によって、その加工領域の拡大が続けてきたことですね。現在、山田工場

は3万5000㎡の敷地に工場5棟を配し、200台弱の機械を備えて、鋼材やステンレスなど19種類の金属素材に対応できます。加えて商社からの材料直接調達から切削・溶接など加工の最終工程まで一貫した「オ

ールインワン加工システム」を構築し、コスト削減とともに製品の企画提案から設計・加工・アッセンブリー・物流まで、短納期や大量の発注にも対応している点も強みです。さまざまな業界に向けて生産材としての素材からユニット部品や消費材まで多岐にわたる用途の製品を加工して販売しています。

—自動車・家電業界などの各種工業生産ライン用の設備部材をはじめ、建設関連、半導体関連、エネルギー関連、畜産・園芸など広範囲な業界と取引引きしているそうですが、特にどの業界に強いわけですか。

石田 どの業界がメインというよりはなく、割合で言えば、10%を超えている業界はありません。半導体がいい時もあれば、工場設備や畜産関係がいい時もあります。

—というのも、当社の商品は「加工」そのもので、特に取引先ごとの仕様に応じた「オーダー加工品」、これは加工する側としては面倒なのですが、そういう面倒なすき間に特化した戦略を

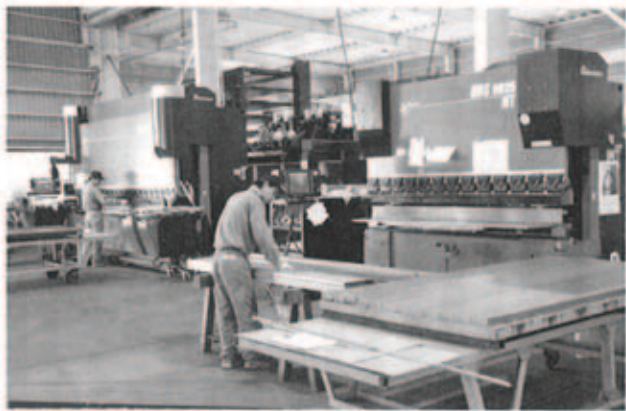
とってきたからなのです。いわゆる規格品も作りますが、それだけであれば、最終的には海外で生産した方が安くできると思いますし、そうではない国内だけで横展開できる「オーダー加工品」の需要に着目したわけです。

—それは御社にしかできないという意味でしょうか。

石田 1つ1つの加工を取れば、全国どこにでもできる業者はあります。しかし、さまざま



石田利幸(いしだ・としゆき)社長  
高崎市(旧山田市)出身。1949(昭和24)年9月13日生まれ。福岡県立山田高校(今年3月閉校)卒。福岡大学経済学部に入社するも3年次に休学し、「自分探し」のため東京へ。さまざまなアルバイトをしながら資金を貯めマネジメントの専門学校へ。71年建築図面販売の関西建築資料研究社に入社し、福岡支店勤務。鹿児島支店長を最後に78年本社転勤を固辞し退職。83年義兄の故荒巻伸一氏(元専務)と日創工業(株)(現日創プロニティ(株))設立、社長就任(04年8月に退任、洋子夫人が社長就任)。1男1女、長男の徹氏は同社取締役営業推進部長で、小学2年生になる双子(男・女)の孫がいる。趣味はゴルフ



▲薄板加工能力を増強するため、昨年11月に3基導入したアマダ製のネットワーク対応型プレスブレーキ

▲高崎市(旧山田市)にある山田工場は3万5000㎡の敷地に5棟を配す(写真左側が第3、右側が第4工場。その右奥に第5工場がある)



▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

▲8月8日の上場セレモニーにて福証の松野直彦理事長と石田社長

「加工は無限大の可能性がある」  
M&A戦略で成長加速へ

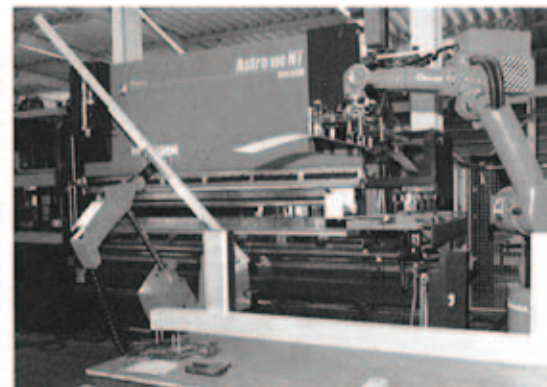
こしや提案営業の推進、3月に第5工場が完成して生産能力が増大したことが貢献しています。配当は前期から実質250円増の1500円とする予定です。

ただ増収が見込めそうですね。石田 原油高で需要が増加している太陽光発電用のパネル材や、造船業界向けの受注など新規分野を強化し、今後は最低でも年5〜10%の増収率を確保していきます。

初の方金具もそのルートを利活用して考案して、実は工場ができる前にオーダーがいったいになっていました(笑)。それ以来、ユーザーの声を正しく理解し、それに対して素材・形状・加工方法・コストなど作る側の視点で、どれほど最適でリーズナブルな提案ができるかが当社の基本となっています。

【本社】	〒815-0035 福岡市南区向野1-15-29
【設立】	1983(昭和58)年9月 (創業) 1976(昭和53)年2月
【資本金】	2億9500万円
【銀行】	福岡大橋 三菱東京UFJ福岡 商工中金福岡 西日本シティ 他
【役員】	(社)石田利幸 (常)後藤正治 (取)石田徹 大型和生 金井郁夫 白根政幸 (監)藤田 幸 (非監) 広瀬隆明
【事業】	金属加工製造
【仕入先】	伊藤忠丸紅鉄鋼 JFE西部薄板建材 阪和興業 メタルワン九州 丸久
【販売先】	大和社 コマニー 三和シャッター工業 文化シャッター 他
【販路構成】	オーダー加工品57.4% 企画品36.9% 他5.7%
【出先】	(工場)高崎市上山田211-57 (出張所)鹿児島 宮崎
【業績】	売上高(千円) 経常利益(千円) 従業員
04年8月	1,563,002 164,785 64
05年8月	2,233,764 436,392 79
06年8月	2,250,540 240,013 88

※特記別冊「福岡の会社情報」データベースより



▲全自動の高速・高精度ベンディング(曲げ加工)ロボットシステムなどで省人化も進めている

設備を備えて、多種多様な加工品に対応するスタイルを築いている会社はおそらくないと思います。それは、例えば、造船向けから自動車向けに変われば、機械も、それを動かす人や設計する人も変わりますし、相当な投資が必要ですから、非常に難しいわけです。

第5工場は当初、塗装ライン専用工場にする計画でしたが、屋根・壁・床材やクリンルームパネル、精密加工品、仮設ハウス向け部材などの受注が増加し、既設ラインがフル操業となっていた上、材料や加工品置き場が手狭になったことから、溶接・組立ライン兼保管倉庫とし

計画中の第6工場は塗装ライン専用工場になるわけですね。石田 現工場は手狭になったため、現在、高崎市と用地取得の交渉を進めています。第6工場は電着・粉体・焼付けが一体化できる塗装工場にし、あらゆる塗装が可能な体制を整えたいと思います。電着ラインまで装備する板金主体の加工業者は全国的にも珍しいは



▲福岡市南区向野1丁目の本社屋は菓子メーカー・ひよこの本社社屋南東向かいに立地

## 第6工場建設で塗装分野に本格進出 今後は最低5〜10%の増収率確保

105年4月に第4工場、今年3月に第5工場が完成し、さらに加工領域を広げていますね。石田 第4工場には、コンビユーター内装部品やATM・CDの部品など、精度が必要な部品の引き合いが増えていることから、超精密加工専用の機械を導入し、I/T関連や電機向けなどの超精密加工分野に参入しました。将来的には加工した精密部品の組み付けや自動車部品向けの加工も視野に入れています。

8月には完成にこぎつけたと思っています。石田 上場後の決算となる今年8月期は売上高が前期比111%増の25億円、経常利益が同33%増の3億1600万円、当期利益が同2.74倍の1億8000万円の増収増益を見込まれています。この要因は、

業種と取引があることで、一業種の景況に左右されにくいといった強みになっており、増収を

ずで、これまで外注していた塗装も自社で賄い、さらにコストダウンが可能となります。来年8月には完成にこぎつけたと思っています。